

平成 19 年度

森林を活用した長期体験活動の推進方策に関する調査

調査報告書

平成 20 年 3 月

林 野 庁

まえがき

この報告書は、林野庁が、(社)全国森林レクリエーション協会に委託して実施した「平成 19 年度森林を活用した長期体験活動の推進方策に関する調査」の調査結果を取りまとめたものである。

最近、我が国社会は少子高齢化が急激に進展する中で、グローバル化、情報化、消費社会化が進展し、家庭、学校、地域の間など子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している。これらの社会の変化は、子どもたちの自然体験や生活体験の不足による様々な問題を深刻化させ、子どもたちの社会的自立の遅れが懸念され始めている。

こうした生活体験や自然体験の機会を取戻すためには、長期の自然体験活動を計画的、かつ組織的に行うことが、子どもたちの「自然への理解」や「生きる力」を育成する上で高い効果を発揮するものと考えられる。特に森林を活用した長期体験活動では、森林の多面的機能を理解するために、また森林吸収源対策への国民の理解を得るために、その推進を図ることが必要である。

しかしながら、森林を活用した長期体験活動は夏休みなどの長期休暇期間に限られること、長期にわたる活動プログラムの作成が難しいこと、体験・宿泊施設の運営ノウハウが乏しいこと等の課題がある。このため、こうした課題を明らかにし、これらの点を克服するノウハウ等を提示することが必要である。

本報告書は、第 2 章で「各分野からみた森林を活用した長期体験活動」、第 3 章で「連続 5 日以上長期体験活動の実態」、第 4 章で「森林を活用した長期体験活動の取組事例」及び第 5 章で「森林を活用した長期体験活動のガイドライン」について記述している。

今回の調査においては、平成 18 年度調査に引き続き、明治大学経営学部教授星野敏男氏、NPO 法人国際自然大学校代表佐藤初雄氏、独立行政法人森林総合研究所多摩森林科学園チーム長大石康彦氏、東京農業大学森林政策学研究室講師関岡東生氏に貴重なアドバイスをいただいた。

また、森林を活用した長期体験活動の事例調査では、黒松内ぶなの森自然学校（北海道黒松内町）、白神自然学校一ツ森校（青森県鮎ヶ沢町）、イーハトーヴォ安比高原自然学校（岩手県八幡平市）、くりこま高原自然学校（宮城県栗原市）、ハローウッズ（栃木県茂木町）、世田谷川場ふるさと公社（群馬県川場村）、キープ自然学校（山梨県北杜市）、グリーンウッド（長野県泰阜村）及び岐阜県立森林文化アカデミー（岐阜県美濃市）の関係者の方々に多大なご協力をいただいた。

これらの方々に対し、心からお礼を申し上げるとともに、この報告書が森林を活用した長期体験活動を推進に資すれば幸いである。

平成 20 年 3 月

林野庁

目次

第1章 調査の目的と方法	1
第2章 各分野からみた森林を活用した長期体験活動	3
1. 野外教育からみた自然体験活動	3
2. 事業経営からみた自然体験活動	13
3. 森林環境教育からみた長期体験活動	20
4. 地域振興からみた長期体験活動	31
第3章 連続5日以上長期体験活動の実態	37
1. 長期体験活動プログラムの内容	37
2. 長期体験活動の目的	39
3. 長期体験活動のフィールド	39
4. 長期体験活動の実施時期	40
5. 長期体験活動の実施期間	41
6. 長期体験活動の宿泊施設	41
7. 長期体験活動の食事形態	42
8. 長期体験活動の参加者数	43
9. 長期体験活動の参加地域	43
10. 長期体験活動の参加者層	44
11. 長期体験活動の募集方法	45
12. 長期体験活動の交通アクセス	45
13. 長期体験活動の参加動機	46
14. 長期体験活動のスタッフ当たり平均参加者数	47
15. 長期体験活動の所属スタッフ	47
16. 長期体験活動の安全スタッフ	48
17. 長期体験活動の参加費	49
18. 長期体験活動の参加費に含まれる経費	49
19. 長期体験活動に対する支援・助成	50
20. 長期体験活動の課題	51
第4章 森林を活用した長期体験活動の取組事例	53
1. 黒松内ぶなの森自然学校の取組（北海道黒松内町）	53
2. 白神自然学校一ツ森校の取組（青森県鱒ヶ沢町）	63
3. イーハトーヴォ安比高原自然学校の取組（岩手県八幡平市）	74
4. くりこま高原自然学校の取組（宮城県栗原市）	84
5. 森の発見・体験ミュージアム「ハローウッズ」の取組（栃木県茂木市）	96
6. やま（森林）づくり塾の取組（群馬県川場村）	107

7．世田谷川場ふるさと公社の取組（群馬県川場村）	116
8．キープ自然学校の取組（山梨県北杜市）	126
9．グリーンウッド自然体験教育センターの取組（長野県泰阜村）	134
10．岐阜県立森林文化アカデミーの取組（岐阜県美濃市）	145
第5章 森林を活用した長期体験活動のガイドライン	155
長期自然体験をめぐる論議	155
1．長期自然体験の必要性	155
2．長期自然体験活動が子どもたちの「生きる力」に及ぼす効果	156
森林を活用した長期体験活動のガイドライン	158
1．長期体験活動を推進するための視点	158
2．自然体験活動指導者の確保と養成	160
3．活動プログラムの開発と充実	162
4．安全管理	169
5．広報・参加者募集	174
6．施設、フィールド、地域の協力	176
7．収支バランス	179
森林を活用した長期体験活動の推進に向けて（当面している課題）	182
統計表	
1．連続5日以上長期自然体験活動の概要	185
2．長期自然体験活動の課題	192
長期自然体験活動プログラム事例（38事例）	199
参考資料	237

第1章 調査の目的と方法

1. 調査の目的

本調査は、全国で実施されている長期自然体験活動の実態を把握するとともに、その活動内容、運営ノウハウ等を分析して、森林を活用した長期体験活動の推進に資することを目的とする。

2. 調査検討委員会の設置

調査に当たっては、調査検討委員会を設置する。調査検討委員会では、調査の方針、調査の対象、調査の方法、調査結果の検討、分析及び調査結果の取りまとめを行った。

調査検討委員会のメンバーは、次の通りである（敬称略）。

星野敏男 明治大学経営学部教授

佐藤初雄 NPO 法人国際自然大学校代表

大石康彦 独立行政法人森林総合研究所

関岡東生 東京農業大学森林政策学研究室講師

なお、オブザーバーとして文部科学省スポーツ・青少年局の担当官が参画した。

3. 「各分野からみた森林を活用した長期体験活動」に関する事項

各分野からみた森林を活用した長期体験活動については、それぞれの有識者にインタビューした内容を取りまとめた。インタビューのテーマは、「野外教育からみた自然体験活動」、「事業経営からみた自然体験活動」、「森林環境教育からみた長期体験活動」及び「地域振興からみた長期体験活動」である。

4. 「連続5日以上長期体験活動の実態」に関する事項

平成18年度に実施した「自然体験活動に関するアンケート」のうち、連続5日以上長期体験活動を実施している80団体を対象にして、公的団体、非営利団体及び営利団体別の「連続5日以上長期体験活動の実態」を取りまとめた。

5. 「森林を活用した長期体験活動の取組事例」に関する事項

森林を活用した長期体験活動に取り組んでいる活動事例について、現地調査と合わせてインタビュー取材を実施した。取組事例は、次のとおりである。

長期体験活動の取組事例

所在地	団体名	活動プログラム
北海道	黒松内ぶなの森自然学校	夏の長期体験活動村
青森県	白神自然学校	夏休み子ども自然体験塾
岩手県	イーハトーヴォ自然学校	ATOM キャンプ
宮城県	くりこま高原自然学校	パイオニアキャンプ
栃木県	ハローウッズ	放置された森の復元
群馬県	世田谷川場ふるさと公社	こどもやま（森林）づくり教室
山梨県	キープ自然学校	いちばん星 キャンプ
長野県	グリーンウッド	信州こども山賊キャンプ
岐阜県	森林文化アカデミー	森林環境教育キャンプ

6. 「森林を活用した長期体験活動のガイドライン」に関する事項

上述の各分野からみた長期体験活動、取組事例及び長期体験活動の課題を明らかにした上で、森林を活用した長期体験活動を推進するに当たって配慮すべき事項をガイドラインとして提示している。